

市川市議会の切手購入問題

百条委 再び設置へ

市川市議会の政務活動費をめぐる問題で、市議会は十七日、切手を大量購入した小泉文人市議と、四月の市議選で落選した鈴木啓一元市議の二人を対象にした調査特別委員会（百条委）の設置を求める決議案を全会一致で可決した。六月定例会最終日の二十四日まで、に委員十五人を決め、百条委を立ち上げる。

市議会は昨年十二月、政活費絡みで二つの百条委を設置したが、一度も開かず消滅させた。市も公認会計士による外部監査を行ったが、切手の用途まで踏み込めず、市民から不満の声も出ていた。

百条委は、二人が所属し

た会派が二〇一一年度から二〇一三年の間、購入した計約三百七十万円分の切手を使って行ったというアンケートが実在したかを調べる。

二人が一一年度に属していた会派の別の市議三人は「返信されたというアンケートはがきは見ていない。結果の説明もない」と話している。切手を大量購入した会派は他にもあるが、自主返納を表明したことなどから百条委の調査対象から外した。小泉市議らが属した会派は返納の意思を示していない。

決議可決に小泉市議は「真摯に受け止める。疑義は百条委で明らかにする」と話した。

（服部利崇）